

## 近況報告

第2期 OB 中谷 麻希

小野先生、みなさん、ご無沙汰しております。卒業以来、なかなかOB会に出席できずにいましたので、今回は久々にみなさんにお会いできることを大変嬉しく思っています。

今回は小野先生より「新しい彼氏について執筆を…」とのお話をいただき、先生をはじめ現役生のみなさんの間では周知の事実となっているあたりにやや驚きを隠せないのですが、せっかくの機会ですので今の仕事を含め、この場を借りて近況報告をさせていただければと思います。

### 仕事編

#### ◆ブライダルプランナーから広告プランナーへ

卒業してから、もう6年が経とうとしているとは...早いものです。

私は3年前に前職のブライダルプランナーを辞め、予てから挑戦したかった広告業界へ転職しました。まったく経験のない私にとって、この業界の門は高く厚く、なんとか忍び込めたのは博報堂プロダクツという広告制作会社のしかも人事部でした。それでも、現場と関わる業務につけばチャンスはあるかも...。そんな期待を胸に、新卒採用を担当させてもらったことがきっかけとなり、縁あって現場へ異動、現在は広告プロモーションの企画を担当する部署で、プランナーとして日夜、得意先の課題に頭を悩ませ、奮闘する日々を送っています。

#### ◆広告業界のギャップ

関わる人はじつに様々です。商品のことをとても愛している得意先、はじめて商品を任されて頑張っている新人担当者、得意先のために一生懸命な広告営業マン、生活者のことをいつも考えている社内スタッフ...。その一方で、社内の名誉ばかり気にしている得意先宣伝部長、得意先の顔色ばかりうかがっている広告営業マン、金にならない仕事はやりたがらない社内スタッフだって...。結構たくさんいます。

思っていた以上に、クライアントは生活者のことを考えていなかったり、広告マンはクライアントの商品のことや生活者のことまで考えていなかったりもします。これから就職活動を行い、これから社会に出るみなさんにとっては、少し悲しいかな、またOBの方々にとっては、かなりの語弊があるかもしれませんが（もちろん全てがそうではありません）が、学生時代に描いていた華やかな広告業界は、実際はそんなに綺麗なものではありませんでした。得意先や生活者、社内スタッフのためにと頑張っているのに、得意先もスタッフも目先の売上げや上司の顔色伺いしか考えていない。だから、課題の本質はどこへやら！ 広告企画に携わって1年半。広告の仕事とはこういうことだったのだろうか、と自問自答することも出てきました。

#### ◆仕事の原動力

けれど一方で、得意先者の喜ぶ顔が毎日の仕事の原動力になっていることは確かです。得意先の「いいね！」という納得の笑顔のために、もうひと超え！ いやもっと！！ そう思いながら、今日も朝まで企画をつくっていたりします。その点は、ブライダルプランナーのときと変わらないものです。

共に悩み課題解決へ向かう得意先やスタッフの存在も欠かせません。いろいろ世知辛いことも書きましたが、魅力的な人はもちろんたくさんいますし、大きな社会の構造を学んでいると思えば、良き人生勉強というものです。

#### ◆変化する広告社会

広告業界は今、長引く不況とメディア多様化の時代にあって、ついにマス広告の崩壊が表面化してきています。企業の広告予算はマス領域からプロモーション領域へ推移し、領域に捉われない広告設計が求められるようになり、忙しくもやりがいを感じる毎日です。

どの業界もそうなのでしょうけど、仕事ってほんとと人の“縁”だなんて感じます。いい人間関係が次のいい仕事を創る。まだまだ未熟者の私には、生活者を動かすような大きな広告を仕掛けるまでには、長い道のりが待っていそうですが、その日が来るのを楽しみに今を思い切り楽しんでます。

### プライベート編

#### ◆おばさんになりました！

妹に先を越され、昨年9月に姪っ子が産まれました。写真は今年のお正月に実家へ帰省したときのものです。社会人になってからは、実家へ帰る回数も減っていましたが、姪っ子の誕生を機に、今まで以上に帰省が楽しみになり、東京へ戻りたくない心境は久々のものでした。こうやって写真を載せたいあたり、「あ〜。伯母馬鹿とは、このことだ...」と感じる今日この頃です。



妹と姪っ子

#### ◆新しい彼氏

昨年春から第7期の白石くんとお付き合いをさせてもらっています。若干、7つの年の差です...。出

会いは、彼が小野ゼミに入ゼミした日だったようです（←ほんと、すみません）。小野ゼミの活躍は毎日のように話に聞いています。たまにゼミのことで真剣に喧嘩をしていたりもします（笑）。ふたりとも仲良く将来に向けて頑張っていますので、これからも温かく見守っていただけると嬉しいです。



小野ゼミ初コンパ 2009——運命の出会いの場面（著者は左端）



「新しい彼氏と私」